

2016年度男女共同参画推進ワークショップ開催報告

標 題 女性研究者の積極的採用-女性限定公募等の取組と成果に学ぶ-

日 時 2017年1月25日(水) 14:30~15:30

会 場 芝浦工業大学豊洲キャンパス 教室棟3階305教室

趣 旨

芝浦工業大学では、女性の積極的採用や育成・登用の促進は、大学方針が共有され実行されているものの制度的化はされていない。制度化されたポジティブ・アクションを以て取り組み、成果をあげてきた他大学の経験を知り、熾烈化する稀少な工学系分野の女性研究者の獲得競争の下、Centennial SIT Actionに2027年の女性教員比率目標値25%を掲げる芝浦工業大学が、今後にわたって優秀な女性研究者を維持・獲得していくための方策検討の契機とする。

プログラム

別紙の通り

参加者

13名

学長、副学長1名、学長補佐2名、学部長3名、研究科長2名、
学科主任・科目代表3名、教授1名

開催の概要

國井秀子学長補佐/男女共同参画推進室長の開会挨拶・趣旨説明に続き、ゲスト・スピーカー宮浦千里東京農工大学副学長・女性未来育成機構長より、「女性研究者の積極的採用と活躍推進に向けた取組」と題して、東京農工大学の取組と成果について講演頂いた。

講演では、「女性研究者支援モデル育成」(2006~08)、「女性研究者養成システム改革加速」(2009~13)、「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」(2013~15)と「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(2016~21)と文部科学省科学技術人材育成費補助事業を切れ目なく活用して進められた、東京農工大学の、環境整備、採用・育成・登用促進、ネットワーク形成の取組と成果を紹介頂いた。環境整備では、学内保育所整備、研究支援員や産休期の専任ポストの配置等が行われた。また、優れた女性研究者の加速的増加のグッド・プラクティスとして注目された「女性研究者養成システム改革加速」における「農工大式ポジティブ・アクション 1プラス1」は、現在は、採用から女性幹部の戦略的養成の制度へと発展移行している。育成の取組としては、産学連携事業や国際共同研究への女性研究者の参加促進等を行ってきた。学内の認識共有をはかりながらのこうした取組により、工学・農学系の常勤女性研究者の数は2008年の21名(5.4%)から2015年

には51名(12.9%)へと2.5倍となり、かつ女性研究者の研究業績は男性研究者を上回る状態にある。拠点型、牽引型では、機関連携による女性研究者の支援・研究力強化・登用促進の共同体制づくりによる効果の波及に力を入れている、とのお話であった。

次いで、3グループに分かれて短い意見交換を行った。各グループから意見交換のキーワードとして以下が提出された。

- ・特別のしかけをつくらなければ変わらない、
- ・働く環境をやさしく
 - ：教育負荷の軽減、
 - ：ワークライフバランスへの配慮
 - ライフイベント期の教員への支援員配置の充実、ポストク雇用
 - 保育所開設

村上雅人学長の、今後の取組への意向表明と開会挨拶を以て会を閉じた。

総括

教学役職者に参集頂き、短時間ながら、大学としての継続的・組織的・戦略的な取組、それを統括するキーパーソン、そして他機関とのネットワークの必要性を再確認する機会となり、開催目的を果たすことができた。



2016 年度男女共同参画推進教員ワークショップ
プログラム

標題：女性研究者の積極的採用—女性限定公募の取組と成果に学ぶ

日時：1 月 25 日（水）14 時 30 分～15 時 30 分

会場：豊洲キャンパス 教室棟 3 階 305 教室

ゲストスピーカー：宮浦千里 東京農工大学副学長・女性未来育成機構長

プログラム

司会：内藤和美

14:30～33 開会挨拶、趣旨説明

國井秀子男女共同参画推進室長

14:33～15:03 ゲスト・スピーチ

宮浦千里東京農工大学副学長・女性未来育成機構長

15:03～15:25 グループでの意見交換

15:27～15:30 講評、閉会挨拶

村上雅人学長